

洪水ハザードマップを活用しましょう!



洪水ハザードマップの使い方

ステップ

1 自宅の位置に印をつけましょう



自宅の位置に印をつけたら、自宅の浸水深を確認しましょう。また、その浸水深がどの程度の深さなのかを、マップ内の「浸水深の目安」を参考にして確認してください。浸水する場合には、避難の必要があります。

ステップ

2 自分たちの地域防災拠点に印をつけましょう



P9に掲載している「地域防災拠点」の欄や洪水ハザードマップで地域防災拠点を確認し、安全な避難経路を記入しましょう。そして、この冊子の表紙にある記入欄に、地域防災拠点の名前を記入しておきましょう。

ステップ

3 逃げ遅れた場合の待避施設を確認しましょう



何らかの理由で逃げ遅れ、地域防災拠点に避難できなかった時を考え、緊急時の待避施設をP10の「待避施設」の欄や、洪水ハザードマップで確認し、この冊子の表紙にある記入欄に、待避施設の名前や住所などを記入しておきましょう。また、待避施設への安全な避難経路も考え、記入しておきましょう。

ステップ

4 実際に経路を歩いてみて安全か確認しましょう



設定した避難経路を実際に歩いて、地図に記載されていない地形(階段や地形変化等)や避難にかかる時間等を確認しましょう。歩く際も洪水をイメージし、安全な避難が行えるように準備をしましょう。

ステップ

5 地域で協力して、より良いマップにしましょう

地域の方々と、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。また、高齢者等の避難に援護が必要と思われる方についても、地域でできることを考え区民みなさんの安全が確保できるようにしましょう。

